

「SDGs 関連の取組事例調査」報告書

— 株式会社べつかい乳業興社の事例 —

調査実施日：2023年8月9日(水)～10日(木)

調査担当者：本郷、吉本

調査先：株式会社べつかい乳業興社

応対者：製造開発部施設部 高橋部長

1 会社概要

- ・所在地：北海道野付郡別海町
- ・設立年月：2001(平成13)年8月
- ・出資金：1億円(別海町、道東あさひ農業協同組合・中春別農業協同組合・計根別農業協同組合、(有)別海町酪農研修牧場、コープさっぽろ)
- ・役員：社長(別海町副町長)、常勤役員1名、非常勤理事数名
- ・従業員：28名
- ・売上高：5.8億円(牛乳のうち学乳が18%)
- ・生乳受入量：1,800トン
- ・営業範囲：北海道内中心。北海道物産展やEC販売は全国
- ・取扱構成：牛乳、乳製品ギフトセット(乳製品詰め合わせ)、乳飲料、バター、ソフトミクス、チーズ、アイスクリーム、ヨーグルト



工場及び乳加工研修施設(左)及び農漁村加工体験施設(右)(別海町HPより)

○ べつかい乳業興社の沿革

べつかい乳業興社の沿革について触れる前に、その設立の背景にある別海町の酪農の歴史について概説する。

別海町への開拓者の入植は、1898年～1899年における殖民地の区画開放を契機とし進められ、当初は豆類雑穀主体の農業が行われた。本格的な酪農の振興は、1956年の根釧パイロット



根釧パイロットファームの住宅と牛舎

ファームへの入植の開始と、1973年～1983年に実施された「新酪農村建設事業」による大型酪農への展開に負っている。規模拡大に伴う負債、過重労働、環境等の問題が深刻化する中、多くの離農者が出るという試練を乗り越え、全国一の生乳生産量を誇る酪農が確立されていった。



新酪農村建設事業によって建設されたサイロ・牛舎など

酪農王国別海町は、人口(約1万4千人)よりも牛の頭数の方が多い。2021年現在、687戸の総農家戸数のうち酪農家(乳用牛飼養)戸数は654戸、乳用牛飼養頭数は約11万頭、生乳生産量は約50万トンにも及ぶ。なお、第二位の中標津町の生乳生産量は約20万トンなので、その2.5倍というダントツの生産量を誇っている。

以上のような酪農の歴史を有する別海町であるが、べつかい乳業興社の歴史は比較的新しく、1974年に設立された町営の別海町ミルクプラントがその始まりである。一般販売向けではなく、別海町の事業として限定付きで牛乳を無償で配布するため、本プラントにおいて180ml入りの三角パック福祉牛乳の製造が開始された。



その当時から、別海町で生産された生乳のほとんどは大手乳業メーカーの工場ではバター、脱脂粉乳などに処理加工されていた。別海町内で牛乳として消費されることはなく、別海町民は釧路、十勝、札幌などの工場生産された牛乳を飲んでいた。このため、別海で生産された生乳で製造された牛乳や乳製品を作りたいという機運が高まり、別海町ミルクプラントを継承して1984年に町営の別海町酪農工場が設立され、本格的に販売することとなった。

しかしながら、町営の工場の老朽化に伴い、別の場所に工場を移転することとなった。こうして2001年に新たに新別海町酪農工場が新設され、別海町のほか地元の3農協等からも出資を仰ぐことにより、第3セクター方式で運営される(株)べつかい乳業興社が設立された。



○ 現状

べつかい乳業興社は、牛乳の生産が50%以上と過半を占めており、そのほかにバター、チーズ、アイスクリーム、乳飲料、発酵乳など多品目の牛乳乳製品を生産しているが、生産されるアイテム数は他の乳業メーカーと比べればそれほど多くはない。学校給食用牛乳の生産は2003年に開始され、地元別海町のほか、近隣の根室市、釧路町、厚岸町、浜中町、弟子屈町の小中学校に供給されている。訪問した時期はちょうどお盆前であったせいか、地元の方々が工場を訪れ、乳製品ギフトセットを宅配便で贈る手続きをしており、工場というよりは公民館のような雰囲気であった。

生乳受入量は年間1,800トンで、うち1,500トンはべつかい乳業興社とほぼ同じ出資者により運営されている別海町酪農研修牧場で生産された生乳である。別海町酪農研修牧場の乳質基準は非常に厳しいため、高品質な生乳を用いて牛乳乳製品を生産することにより、町民においしい牛乳乳製品を提供している。また、別海町酪農研修牧場は新規就農者を確保するための牧場であることから、べつかい乳業興社による牛乳乳製品の生産は、別海町における持続可能な酪農を間接的に支える有力なツールとして大いに貢献している。



別海町酪農研修牧場全景(HPより)

2 SDGsに関連した取組(調査結果)

1) 環境負荷軽減のための取組

(1) 廃棄物関連対策

① 食品ロスの削減

完全受注生産方式のため、見込み生産等による食品ロスの発生はない。2018年



9月に発生した胆振東部地震では、ブラックアウトにより生乳の生産だけでなく牛乳乳製品の生産もできなくなった。その反省を踏まえ、自家発電機を導入し、工場の稼働まではできないにしても、せめて生産された牛乳乳製品の冷蔵保管が可能となるように対処した。このような取り組みを通して、食品ロス発生の予防にも努めている。



自家発電機

② プラチック容器の削減

プラスチックの使用量を減らすため、できる限りプラスチック容器は使用しないように努めている。

③ 紙資源のリサイクル

紙パックのロス分と使用済み段ボールは、業者を通じてリサイクルに供している。

(2) エネルギー対策

① 二酸化炭素排出量の削減：総合的なエネルギー使用量の報告

別海町の省エネ対策として工場におけるエネルギー使用量の報告が義務付けられていることから、当該報告を通じて総合的にエネルギー使用量の削減に努めている。

② 二酸化炭素排出量の削減：ボイラーの更新
燃焼効率の良いエコボイラー（貫流タイプ）
に取り換えている(既に一機交換済み)。

③ 二酸化炭素排出量の削減：照明のLEDへの切り替えによる節電

別海町の補助を活用して、工場内及び事務所内の全照明を蛍光灯からLEDに切り替え省電力化を図っている。



エコボイラー(貫流タイプ)

④ 二酸化炭素排出量の削減：浄化槽等の改善

来年度(2024 年度)において、省エネタイプの浄化槽に切り替えることを計画している。また、アイスビルダーの更新により、省エネ、効率化を図ることとしている。

(3) 水関連対策

① 節水の取組：普段の努力

当然の取組みとして、工場内の節水に努めている。

② 排水の取組

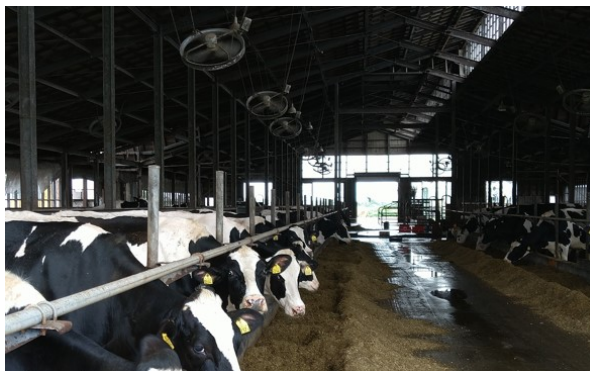
特記すべき取組みは行っていない。

2) 地域への貢献

(1) 持続可能な酪農への貢献

沿革にも記載したとおり、べつかい乳業興社の生乳受入量は年間 1,800 トンで、うち 1,500 トンは別海町酪農研修牧場で生産された生乳である。このほか需給調整のため町内の 2 戸の酪農家からも年間 300 トン程度の生乳を受け入れているが、事実上、別海町酪農研修牧場で生産された生乳を処理加工して販売する工場という位置づけとなっている。

2001 年に設立されたべつかい乳業興社と 1996 年に設立された別海町酪農研修牧場は、いずれも別海町と地元 3 農協等の出資により設立され、第 3 セクター方式で運営されている。つまり、経営者は同一ということになるだけでなく、両者は相互に出資し合っており、密接な関係で結ばれている。別海町酪農研修牧場で生産された生乳をべつかい乳業興社が専属的に受け入れる理由は、こうした理由のほか、別海町酪農研修牧場には町の出資金が入って



第 2 実践牧場(120 頭フリーストール牛舎)



妻帯者用住宅(2LDK-2 棟 6 戸)

研修生住宅

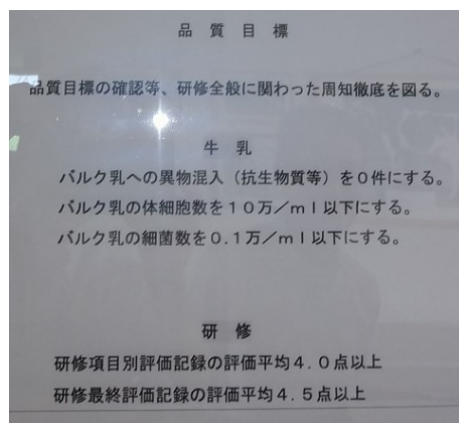


いるため国の補給金等の交付対象とはならず、したがって、指定団体にはアウトサイダーとしてしか出荷することができないためでもある。

別海町酪農研修牧場の本来の目的は、別海町管内に酪農経営の新規就農者(酪農ヘルパーや酪農法人の雇用者を含む)を確保することである。このため、出資者である別海町及び地元3農協に加え、町内の農業関係機関全体で支援する体制が整えられている。研修生は原則として夫婦単位で募集している。これまでの実績をみると、1997年以降これまでに全国各地から103組(+14人単身者)の研修生を受け入れ、そのうち83組(年平均3組程度)が別海町中心に新規就農している。こうした顕著な実績が評価され、2006年度にはホクレン夢大賞を、2010年度には中央畜産会の畜産大賞を受賞している。このように、べつかい乳業興社による牛乳乳製品の生産は、別海町酪農研修牧場の生乳受入を通して、酪農王国別海町の持続可能な酪農を支えている。



なお、別海町酪農研修牧場の自主的な乳質基準は非常に厳しく、体細胞数は10万以下、生菌数は0.1万以下とされている。このため、べつかい乳業興社に生乳を供給している町内の他の酪農家2戸についても、高品質な生乳を生産する酪農家が厳選されている。このように、他に比べて高品質な生乳を用いて牛乳乳製品を生産することで、べつかい乳業興社の生産する牛乳乳製品の差別化が図られるだけでなく、別海町のイメージを高めるとともに、町民には地産地消によりおいしい牛乳乳製品を味わってもらえるという地域貢献にもつながっている。



(2) 福祉牛乳の供給

べつかい乳業興社の前身である別海町ミルクプラントは、別海町の事業として福祉牛乳を製造するために設置されたものである。当初は、180ml 入りの三角パック牛乳が製造・配布されていたが、現在は 200ml 入りの紙パック牛乳に置き換わっている。対象者は別海町に住所を有し居住している高齢者や妊産婦、幼児、障害のある方などで、健康増進のため、毎週ひとり 5 個の福祉牛乳が配布されている。別海町内に 12 か所の配布場所が設置されており、町民が受け取りに来るため、高齢者の交流や健康維持にもつながっている。



(3) 食育への貢献

工場は小規模なものであるが、工場の 2 階から牛乳を充填している様子などが窓越しに見学できる構造となっている。工場設立当初は児童・生徒を含め見学者は非常に多かったが、コロナ禍を経た現在ではほぼ休止状態となっている。また、学校からの依頼に応じて、食育授業にも協力している。このほか、中学生の職業体験にも協力しており、3 日間程度のインターンシップを受け入れている。



(4) 乳製品加工研修施設及び農漁村加工体験施設

べつかい乳業興社は別海町の委託を受け、乳製品加工研修施設及び農漁村加工体験施設の運営を行っている。乳製品加工研修施設においては、チーズ、アイスクリーム作りを指導しており、その指導はべつかい乳業興社の技術者が行っている。特にチーズ作りは人気が高く、さけるチーズ、ゴーダチーズ等を作っている。利用料金を払っても買うよりも安いと好評を博している。農漁村体験施設では、パン作りやベーコン作りなどを指導しており、乳製品加工研修と同様に人気が高い。原則として、それぞれ 10 名以下での受付となっており、予約は 3 か月先までいっぱいとなっている。



2022年度の年間の利用回数及び利用者数は、乳製品加工研修が239回、582人。農漁村加工体験が211回、892人となっている。回数をみればわかるとおり、平日にはほぼ毎日開催されていることがわかる。こうした研修を通じて、食育と地域住民交流の場を提供している。



(5) 地域イベントへの参加

毎年9月に開催される別海町の産業まつりに出店している。また、別海町の広場で開催されるフードマルシェやパイロットマラソンの際にも出店して牛乳乳製品を販売し、地域イベントの盛り上がりにも貢献している。



2018年別海町産業まつりにて

(6) ふるさと納税の活用

べつかい乳業興社の牛乳乳製品の販売は、乳製品ギフトセットの販売に加え、ふるさと納税制度を活用した返礼品としてのギフトセットの販売ウエイトが非常に高い。このように全国の消費者から地元産の生乳を原料として製造された町名付きの牛乳乳製品の注文をいただくことを通して、地域の活性化にも寄与している。



3) 働きがいのある職場づくり

(1) ジェンダー格差への対応

現在の女性従業員の割合は57%と過半を占めており、特に製造部門や品質管理部門での割合が高い。このように、事務所だけでなく工場内でも多くの女性職員が勤務しているため、ほとんど男女間の格差のない施設・労働条件となっている。

(2) 施設内完全禁煙の実施

職員の健康のため、工場及び事務所内いずれにおいても禁煙としている。

3 まとめ(調査を終えての感想)

べつかい乳業興社は、元々は別海町の町営工場として発足した経緯もあり、地元の道東あさひ・中春別・計根別の3農協の出資を得て第3セクター方式により運営されるようになってからも、別海町からの様々な支援を受けて運営されてきた。また、同じ第3セクター方式により運営されている別海町酪農研修牧場との関係は密接で深い。

別海町酪農研修牧場は、後継者の確保を通して酪農王国別海町を次世代につなぐ重要な役割を担っており、持続可能な酪農に直接貢献している。他方で、別海町は全国一の生乳を生産する町であるにもかかわらず、地元で生産された生乳で作られた牛乳が飲めないという課題があった。別海町民は釧路・帯広・札幌などで製造された他地域産の牛乳しか飲めなかった、という大きな矛盾である。べつかい乳業興社は、その矛盾を解決し、地元産の生乳で生産された牛乳乳製品の地元への供給、言い換えれば地産地消を通じて地域の基礎産業が地域住民に直接貢献する道を開いたといえよう。このようにして、べつかい乳業興社は持続可能な酪農に間接的に貢献している。

別海町酪農研修牧場とべつかい乳業興社は、別海町の生乳生産量からみれば小さな存在ではあるが、酪農王国別海町を持続可能にする重要な柱であり、やや大げさな言い方をすれば両翼であるともいえる。SDGsの基本である酪農の持続可能性を維持するため、別海町は両組織を通じて様々な取り組みを支援している。そのような観点から改めて

見直すと、べつかい乳業興社のSDGs関連の取組は、自治体である別海町のSDGs関連の取組への積極的な姿勢を具現化したものであるといっても過言ではない。



第7次別海町総合計画(表紙)



以上